

# よしきい

2021年3月15日



目次

と待ってるよ…

- 公園の風景
  - クロツラアイランド出現・・・1
  - 事件です！・・・1
  - 衣替えする鳥たち・・・1
  - 春までもう一息・・・1
- きらら浜 蜂蜜物語 ③・・・2
- みんなのひろば
  - 右巻き？左巻き？・・・2
- 活動紹介
  - 山口湾クロツラ調査報告・・・3
  - 手話を学ぶ紙芝居・・・3
  - 活動を振り返って・・・3
  - 春のボランティア説明会・・・3

発行：「葦の会」機関紙チーム  
事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53  
きらら浜自然観察公園内  
電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

「葦の会」はきらら浜自然観察公園を中心に、自然を知り・  
親しみ・守る団体です。自然を楽しみながら、その素晴らしさ  
を伝える活動をしています。ご一緒しませんか？

**会員募集中！（高校生以上）**

# 公園の風景

## = クロツラアイランド出現 =

クロツラヘラサギケージの前に突如現れた島。生い茂る竹の中、仲良く並んで休む鳥たち…いやいや、よく見て下さい。その鳥たちは動きませんよ？ 実はクロツラはデコイ、アオサギに至っては平面デコイ、なんとボードに貼られた写真です。これらはサギのコロニー(繁殖地)を公園に誘致し、ゆくゆくはクロツラの繁殖地を作ろうと設置されたもの。わかっているのに二度見してしまうほどリアルです(表紙写真)。視力抜群の鳥たちの目にも仲間がいると映ってくれるのでしょうか。これからどうなっていくのか見守って行きましょう。



ケージから5mのところに来た人工島

## = 事件です！ =



2月14日(日)に定例バードウォッチング入門の11回目が開催され、多数の参加がありました。テーマは「越冬期の小鳥たち」でしたが、彼らは藪の中を動き回ってなかなか姿を見せてくれません。そんな中、子供たちは「事件だ！」と食痕探しに夢中。被害者は残された羽からシロハラ、ズグロカモメ、アオバトなどでした。犯人も被害者のサイズや食べ方などから推理します。自然の厳しさに思いを寄せながらも、探偵気分で犯人と被害者を推理するのも、鳥の楽しみ方のひとつです。

## = 衣替えする鳥たち =

春になると野鳥の羽やクチバシ、脚の色が目立つ色に変化します。これは繁殖のため異性にアピールするためと考えられているそうです。



頭が黒くなったズグロカモメ

園内でも今、全体の羽の色が濃くなり頭が赤茶色に変わってきた冬鳥のカンムリカイツブリや、白かった頭が黒くなっているズグロカモメなどが観察できます。ケージの中にいるクロツラヘラサギのうち1羽も、頭の飾り羽と胸の毛が黄色になっています。是非会いに行ってみてください。

## = 春までもう一息 =

春を求めて園内を散策、芽吹きにはやや早く空は青いけれど風は冷たい3月の初旬です。唯一色味を見せてくれるヤブツバキの赤が陽射しに映えます。イヌコリヤナギが銀色の艶やかで小さな卵型の穂で枝を飾っています。マルバグミの緑の葉影で硬く小さな実に混じり色づき始めた実を見つけ、春の片りんを感じました。

シャリンバイやトベラなどの花が咲き、ミツバチが飛び交う春爛漫までもう一息です。



マルバグミの実

# きらら浜 蜂蜜物語 ③



↑ 巣板に付くミツバチ

働きバチに守られる  
女王バチ(中央)→



冬の寒さに耐えた女王バチと働きバチは、梅の花が咲き始める頃、気温8℃になると活動をはじめます。どの幼虫もはじめは働きバチが分泌する栄養豊富なローヤルゼリーを与えられますが、働きバチの餌は3日経つと花粉とハチミツに変わり、ローヤルゼリーだけを餌として育てられた幼虫が、群れに唯一の生殖能力を持つ女王バチとなります。

女王バチは他の巣箱から飛んできた雄バチ数匹と野外で交尾し、春から秋まで毎日産卵を続けます。多い日には2,000個にもなるといいます。

群れの9割を占める働きバチは、巣の中で働く内勤蜂と巣の外で働く外勤蜂に分かれます。羽化したばかりの若い内勤蜂の最初の仕事は巣の清掃。徐々に育児、巣造り、貯蜜などをこなしていき、門番を経て花粉を集める外勤蜂の仕事につき外敵との闘いにもあたります。

また、8の字を描くように踊る「8の字ダンス」をして、仲間に花のある方角と距離を伝えるという驚きの能力で花のミツを集めます。巣に戻り口移しで内勤蜂に渡すと、内勤蜂の持つ酵素で花蜜がハチミツへと変化。巣の中に貯めたハチミツに内勤蜂が羽ばたいて風を送り水分を飛ばして糖度80%のハチミツとして完成させるのです。

(つづく)

## みんなのひろば😊

右巻き？左巻き？

「なんでだろ～ なんでだろ～ なんでだ なんでだろ～」皆さんも一度は聞いたことがあると思います。そうです。漫才のコンビ「テツ and トモ」のキャッチフレーズです。

自然観察会で「カタツムリ」の観察があるので、予備知識を得ようと本を開いたら「右巻きのカタツムリ」「左巻きのカタツムリ」が掲載されていました。

日本にすむカタツムリは、ほとんど右巻だそうです。

植物の「フジ」の蔓は右巻き？「ヤマフジ」の蔓は左巻き？



「フジ」のつるを横から見ると左上に巻いて登り(図参照)、左巻きと呼んでいる本があります。また、ツルを右手で握ったときの親指の方向から右巻きと呼ぶ本もあります。このように意見が分かれているので混乱します。私は、右グリップは右巻き、左グリップは左巻きとし、後方で解釈しています。

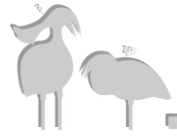
それにしても、右巻き、左巻きがあるのは「なんでだろ～」 「なんでだろ～」

(T.N)



# 活動紹介

## = 山口湾クロツラ調査報告 =



2月24日13時30分、山口湾のほぼ中央に位置する波多瀬と呼ばれる岩場に、8羽と13羽が左右に分かれて休んでいるのを確認。南若川河口でクチバシがまだ黒くなっていない幼鳥1羽が採餌していましたが、波多瀬から移動した個体の可能性もあるということで、2月のクロツラヘラサギは計21羽。なお1月26日には19羽が確認されています。

## = 手話を学ぶ紙芝居 =

ショートプログラムチームは毎月、第3日曜日の午後3時から手作り紙芝居を上演しています。2月28日には、「きらら浜観察公園の自然を手



話で学ぶ」と題した紙芝居を初披露しました。まず、鳥はどうやるでしょう？では、鳥は鳥でもハト、スズメ、ツバメは？ウサギは？犬は？そのほか片手だけを使う数字の表し方など、観客の子供達や大人の方々にも実演してもらい、紙芝居を観ながらみんなで手話を楽しみました。

## = 活動を振り返って =

今期はコロナ禍において、活動の中止、自粛や変更をしながら取り組んできました。4月の春まつりは中止となりましたが、7月の「夏休み子ども早朝観察会」は感染防止対策をしながら開催。途中雨になりましたが子供たちは楽しんでくれました。10月のふれあいまつりは代替イベントとして「きらら浜ウォークラリー&葦の会展」を開催し、参加賞の焼き芋も好評でした。11月には園長に同行して有明海ラムサール関連施設の視察。12月のクリスマスリース作りには多くの参加者がありました。

新たな取り組みとしては、役員会の定例化、レンジャーや会員によるミニ講座の開催、正月の「きらら浜おみくじ」などを行いました。来年度は創立19年です。20周年に向けてより活力ある葦の会を目指したいものです。

(K・Yoshiga)

<俳句教室優秀作>

水鳥をただただ眺め小正月  
鳥の名をああじやこうじやと四温晴

カツ子 美博

1月

沼底に山河を作る蜷の道

はるか

2月

## = 春のボランティア説明会 =

公園ボランティア説明会が3月28日(日)に行われます。葦の会は公園を盛り上げるだけでなく、生涯学習を楽しむ人材を募集しています。ボランティアは敷居が高くて…とお考えのあなた、気軽にお申込み下さい。「自分のペースで」「自分のやりたいこと」を実践中です。老若男女、多くの皆様のご参加お待ちしております。

### 編集後記

新型コロナのため、今期は公園休館や行事中止、機関紙も5月には会員のみへの号外発行となりました。迎える新年度、折々の公園紹介を通し皆様に読んで頂ける紙面作りに励みます。

(Tasha)